

# 横手市の維持向上すべき歴史的風致

計画期間  
平成30年度(2018)～平成39年度(2027)

横手市は秋田県の内陸南部に位置し、東は奥羽山脈、西は出羽山地に囲まれた横手盆地の中央にある。市域には、奥羽山脈を源流とする成瀬川と皆瀬川が合流した雄物川と横手川が貫流し、豊かな水と肥沃な土壌により国内有数の穀倉地帯が形成されている。古代には後三年合戦(1083-1087)が繰り広げられたとされ、中世以降は城下町として繁栄したほか、雄物川と東部を貫く羽州街道を基盤に人・物・文化が行き交い、近世以降は各地で定期市が開設され、常に新しい情報と融合しながら横手の文化を築いてきた。一方で、波宇志別神社のように古代から連綿と伝統を受け継ぐ社寺もある。こうして育まれた横手の多様な文化は、横手の旧城下周辺や、街道の結節点となった増田地区や浅舞地区、沼館地区などの在郷町のほか、古代から各農村地域において、歴史と伝統を受け継ぐ祭礼行事とともに現在も受け継がれ、今に残る旧来の町割りや歴史的建造物と一体となって良好な歴史的風致を形成している。

## 3-3 波宇志別神社と霜月神楽に見る歴史的風致

八沢木地区の波宇志別神社は古代から存続する県内唯一の社であり、古くから一帯は霊域として信仰された。この地域では、霜月神楽が中世から現在まで連綿と継続し、その運営を地域住民らで結成された保存会が支えている。また、地域住民によって八沢木獅子舞が継承されており、地区内の各所で舞を披露し、歴史的風致を形成している。



霜月神楽

## 3-4 雄物川流域の鹿島行事に見る歴史的風致

雄物川は明治期まで舟運による物流の大動脈であり、流域沿いの町は賑わった。この流域沿いはほとんどの集落で「鹿島立て」や「鹿島流し」などの「鹿島行事」が継承される。地域の神社などで製作された鹿島人形が町内を巡行し、集落の境に建てられるなど、集落ごとに特徴的な鹿島行事が継承されており、歴史的風致を形成している。



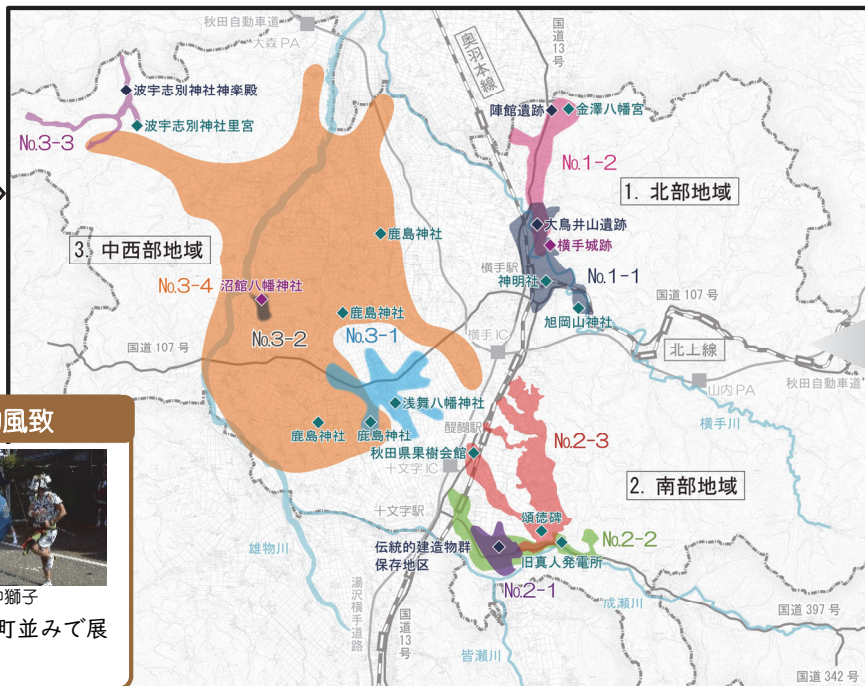
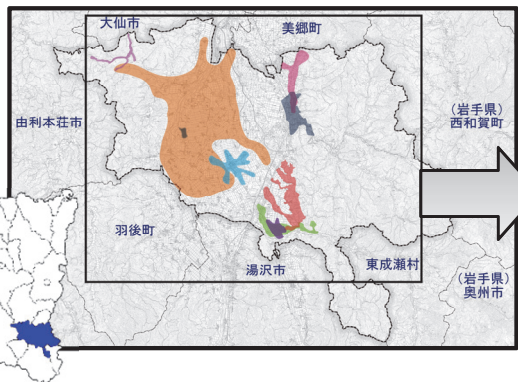
鹿島立て行事

## 1-2 後三年合戦の顕彰に見る歴史的風致

市内北部及び西部地域は後三年合戦の舞台とされ、遅くとも江戸時代には源氏中興の祖とされる源義家が活躍した後三年合戦に関する史跡や伝承地が保護継承されてきた。こうした史跡は近代以降も地域住民の顕彰対象となり、大鳥井山遺跡や陣館遺跡などの関連史跡や金澤八幡宮などの伝承地の顕彰が行われ、歴史的風致を形成している。



後三年合戦の顕彰



## 1-1 横手城下の伝統行事に見る歴史的風致

横手地域では、近世に敷かれた内町、外町の町割りが現在も踏襲され、歴史的建造物が町並みを形成する。この町並みでは、藩政時代に原型が成立した送り盆行事や旭岡山神社の梵天行事、かまくら行事といった伝統行事に加え、神明社の春祭りでは神輿渡御が行われるなど、四季折々の祭礼が展開し、歴史的風致を形成している。



送り盆行事

## 3-2 沼館八幡神社の道中獅子に見る歴史的風致

沼館地区の沼館八幡神社例祭における神輿渡御行列の先頭に「御獅子舞」が配され、道中の交差路などで、舞手と共に「口割り」の演舞を行う。市内でも他に例を見ない道中獅子は、後三年合戦における「沼館」における戦場跡として地名や伝承が随所に残る歴史的な町並みで展開されており、歴史的風致を形成している。



道中獅子

## 3-1 浅舞八幡神社の祭礼と山車巡行に見る歴史的風致

浅舞地区の浅舞八幡神社例祭において、神輿渡御行事とともに行われる「山車巡行」では、置き人形を載せた山車が、湧水や自噴井戸の豊富な歴史的町並みを巡行する。巡行は山車を曳き、お囃子を奏でながら、各町内会ゆかりの地域を巡行し、例祭日には一帯で囃子の音色が響き渡り、歴史的風致を形成している。



山車巡行

## 2-1 増田の町並みと祭礼に見る歴史的風致

増田地区では、鎮守社である月山神社例祭の本祭となる神輿渡御行列が、伝統的建造物群保存地区や周辺の歴史的町並みで展開する。巡行路の端々では神事が行われるなど江戸時代からの古きを踏襲しており、福嶋サイサイ囃子の音色や、90回を超える宵宮の花火大会とあまって、歴史的風致を形成している。



神輿渡御行事

## 2-3 斜面地の果樹栽培に見る歴史的風致

栄地区から醍醐、亀田地区にかけての奥羽山脈の麓には斜面地を利用したりんごの樹園地が広がっている。斜面地には生産に係る施設が、平野部には出荷施設があり、全体として平鹿りんごの生産地帯を形成する。「りんごの唄」で知られるこの地域では、明治期からのりんご栽培のほか開拓者の顕彰も行われ、歴史的風致を形成している。



収穫期のりんご

## 2-2 手倉街道周辺の物資集散と顕彰に見る歴史的風致

奥羽本線(鉄道)の開通とともに十字街と増田は一体的に近代化し、両者を結ぶ手倉街道沿線にはその発展を示す建造物が残る。発展の源泉となる朝市は、現在も周辺の農村集落に支えられ、商店街の一角に開設する。近代化に寄与した施設跡地では市内の産業遺産観光等の先駆けとなった顕彰活動も行われ、歴史的風致を形成している。



増田の朝市



